



☆ 国民と自衛隊とをつなぐ
架け橋
☆ 会員と関係者相互の親睦
と情報交換

隊友よこはま南

第53号

2025年11月19日

公益社団法人隊友会
横浜南支部
発刊責任者 田原昭彦

『パレめん』

横浜南支部長 田原昭彦

「パレめん」は、「ラーメン」でも特別な「麺」類でもありません。

「パレめん」とは「パレード免除」のことです。

私の自衛隊生活は、岡山の県北にある小さな市から防衛大学校に着校した日から始まります。以来三十数年間の自衛隊生活の中では、会員の皆様と同様に、色々なことがありました。苦しいことも、悲しいことも、嬉しいこともありました。この間に幾度となく胸が熱くなる感動を覚えたことは、退官後約15年経った今でも忘れられません。

私が最初に「ジーン・…」と胸が熱くなったのは、防大入校式での先輩方のスマートなパレードでした。防大の制服は海軍兵学校の制服に共通点が見られる花紺色です。学生は、この紺色の制服を身に纏い、パレード時には白い弾帯を着けます。その白色は紺色に映えます。両手には白

い手袋をはめますが、その白さは一糸乱れぬ隊形を浮かび上がらせます。学生隊学生長の腹から発せられた「捧げ銃」、「頭中」の号令、防大音楽隊の「巡閲の譜」によって行われた観閲官（学校長）による巡閲、そして、巡閲にたなびく大隊・中隊旗、心が一つでないといけない右向きを変え行進と指揮官の号令に合わせた「頭右」……私は熱い「何か」を感じていました。「何か」とは何か？後年分かったのですが、その何かとは、国の未来を支える若人の熱意と構え、その威容でした。そんな感動の真の理由を後年理解することも知らずに私の防大での学生生活は始まりましたが、あのスマートなパレードを実施するためには相当の訓練をしなければならぬことが次第に分かって参ります。

防大生はそうは言っても学生ですので、毎日の勉強が仕事になります。その勉強のために教場に向かうのですが、朝礼後は、各学年各班隊伍を

組んで、胸を張り行進をして教場に向かいます。所謂「課業行進」です。月一回は月例パレードなるものがあります。その練度は勤務学生により厳しくチェック・評価をされます。また、開校祭や自衛隊中央記念式典でのパレードとそのための訓練もあります。学生自身で計画して早朝から基本姿勢である「気をつけ」や「整列休め」の訓練をしたこともありましたが、夏場は蚊や虫が顔や手に寄ってきて刺します。そんな中でも微動だにしないことが求められます。そんなことですから自然とパレード訓練が嫌になります。何とかパレード訓練やパレードそのものを抜けられないだろうかと考えも浮かびます。実際、受診や病気・ケガでパレードをしなくても良い学生も出て来ます。そんな学生を「お前、パレめんか。良いなあ。」と羨ましく思っています。

「ラーメン、つけ麺、僕パレめん」

第7普通科連隊（京都・福知山）の小隊長時代、連隊長

から師団長初度視察時の儀仗隊長を命じられたことがあります。儀仗隊と言っても常設ではなく、隊員は連隊の各中隊から寄せ集められ臨時に編成されます。このため、隊員同士は顔見知りでも気持ちはバラバラと言っても良い状態で、儀仗による銃操作もタイミングが合いません。そんな寄せ集めの儀仗隊をどうしたものかと悩みました。悩んだ末に出した答えは、訓練しかないでした。そして、捧げ銃を千回訓練する目標を隊員に伝えて実行しました。当然私も号令、敬礼を千回行うわけですが、意外とこの千回で隊員同士の気持ちも一つになり、儀仗の練度も上がって自信が持てるようになりました。本番では師団長、連隊長から素晴らしい儀仗であったとお褒めの言葉を頂き、連隊の威容と隙のない構えを示すことができたのではないかと喜んだことを覚えています。

中華人民共和国は、9月3日、北京の天安門広場で「抗日戦争勝利80周年」記念の

軍事パレードを行いました。天安門楼上には、習近平国家主席を挟んで向かって左にプーチン大統領、右に金正恩朝鮮労働党総書記が並びました。パレードでは中国近海から米本土を射程に収める（射程：約1万2千キロ）新型の潜水艦発射弾道ミサイル「JL（巨浪）3」が初めて公開され、最新の大陸間弾道ミサイル「DF（東風）61」や空中発射長距離ミサイル「JL（驚雷）1」と共に陸海空の戦略核戦力が初めて同時に公開されたとの報道がありました。この他にも、無人機、ステルス戦闘機などが登場し、軍事宇宙部隊、サイバー空間部隊なども初めて公開されたと言われます。そんな中で私が注目したのは、部隊・兵士のパレード、行進です。TV報道で観た一糸乱れぬ動作には脱帽です。手先まで、足先まで、真っ直ぐに伸びた動作には統制美を感じました。そして、あの力強い眼差し。選りすぐられた兵士とは言え、どれくらい訓練を積んだのでしょうか。並大抵ではできません。

と共に台湾統一への決意を改めて示すもので注目に値しましたが、それ以上に軍そのものの威容、兵士の士気の高さを感じました。ただ、前列を行進した指揮官のレベルはそうでもなかったように思います。中国軍では汚職摘発が再燃しているとの報道もあります。指揮官の行進はその影響とは思いませんが、そう思いたくなりません。反面、相当な反復訓練を積み重ね、ある面ではその訓練に耐えた若い兵士によって作り上げられた統制美には脱帽です。ただ、中には「パレめん」を望んだ兵士もいたかも知れませんが・・・

このパレードから一ヶ月後の10月10日夜、金正恩朝鮮労働党総書記は、平壤で党創建80年の軍事パレードを行いました。この軍事パレードには中国の李強首相やロシアのドミトリー・メドベージェフ前大統領らが出席をし、中露朝3カ国の結束を改めて誇示しました。パレードでは、米全土が射程に入る新型大陸間弾道ミサイル「火星20」（射程：約1万5千キロ）が登場しました。米国を牽制し、対米交渉の再開を睨んでいる核戦力の誇示でしょうか。

目したのは徒歩部隊の行進です。ウクライナ軍との戦闘に参加した部隊が参加したとの報道もありますが、部隊・兵士の一挙手一頭足、縦・横・右斜め・左斜めに揃った銃の位置とその保持要領からはその練度の高さ、油断のない構えを推し量ることが出来ます。どれほど日数をかけて訓練をしたのかと驚きます。訓練は厳しかったことでしょう。ここでもまた選りすぐられた兵士とは言え、その統制美には驚かされました。ただ、同じように「パレめん」を叫びたかった兵士はいたと思いますし、儀礼刀を保持・操作した少しふっくらした指揮官からは統制美の綻びも感じました。

天高く馬肥ゆる秋、今年も全国各地で自衛隊駐屯地・基地では、多くの記念行事が行われます。記念行事での駐屯地・基地開放は、年に一度、自衛隊を国民の皆様に見て・触れて頂き、ご理解とご協力、場合によってはご批判を頂く日です。もちろんパレードも各駐屯地・基地の行事では行われます。そんな中、防衛省は、7月30日、例年11月に陸・海・空自衛隊の持ち回りにより実施してきた中央での観閲式を今後は中止する旨の発表をしました。その理由は、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面する現在、隙のない我が国の防衛態勢を維持する上で、実施は困難としています。なるほど、前防衛大臣が記者会見で述べたように、観閲式では、全国の部隊から約5千人以上の隊員を1か月間程度、装備品を約2か月間程度、この観閲式のために差し出す必要があります。その時点で使用可能な全国の艦艇、航空機の一定数を相当期間、行事のために差し出す必要があります。また式典では、警備や案内、式場内の整備等に多くの隊員が必要となります。この影響は、実任務はもちろんのこと部隊の訓練にも影響が及びます。私も現役の頃、各種パレードに参加しましたし、中央記念式典では朝霞駐屯地まで新潟・高田から移動し会場近くに野営して警備の任務にも就きました。これらの任務には実際のところ負担を感じることがありました。間違いなく警戒監視を含む実任務には影響がありますし、現下の安全保障環境を考えた場合に、国民の理解を得るためのパフォーマンスは必要ないとも思われます。

また、拡大・活発化する周辺国の軍事活動に対して、警戒監視を始め

とする各種対応に一分の間隙も生じさせることはあってはならないのも事実です。そのために最近では、各国との実戦的な共同訓練も増加し、あるいはその訓練そのものが抑止や対応のための展開にもなります。従って、観閲式の中止は大いに理解できるところです。ただ、他国にわが国を侵略させないという国家・国民の意志とその構えを示すことは重要なことと思っ
ています。特に、充実してない装備品の紹介であっても国を守ろうとする自衛官の鋭い眼差しと一挙手一頭足の構えは全世界に示すべきと考えています。これは精神主義を強調しているものではない
りません。軍事パレードを行う意義から導き出されるものですし、人が抑止を形作ると考えるからです。

前防衛大臣は「熟慮を重ねて、防衛省としても、必要な訓練時間等の削減を行い、今後もうこうした行事を毎年実施していくことは、将来にわたって隙のない我が国の防衛態勢を維持する上では困難であるという結論に至りました。」と話されましたが、隙のない構えは、国民にも観て頂かなければなりません。しかしながら実任務に就いている状況を国民に観せることには自ずから限界があ

ります。このため、パレードの中止を理解した上で、中止のみに課題の答えを求めるのではなく、隙のない態勢と隙のない構えの両立を図る工夫はないものかと思うのです。

中国北京での軍事パレードは、2015年9月の「抗日戦争勝利70年」に行われ、「建国70年」の2019年にも行われました。そして、今年9月「抗日戦争勝利80年」（日本が降伏文書に調印した9月2日の翌日）が「抗日戦争記念日」に行われ、習近平国家主席としては3回の軍事パレードを行ったこととなります。

日本も、各種の結節時に中央での観閲式を行うようにしては如何かと思うのです。しばらくは「パレメン」でも良いのですが、ずっと「パレメン」であることは多くのものが失われていくようにさえ思えるのです。



自衛隊観閲式で先頭で入場する
防衛大学校学生隊

『敬老の日を過ごしながら
考えたこと』

支部理事役 菊島 信洋

日本には先憂後楽という思想があり、これを人生に当てはめると前半より後半に幸福があると考えます。隊友会に所属する会員皆様の大半は高齢者ですので（無遠慮ですみません）、いろいろな楽しい日々をお過ごしのことと思ひます。私もそろそろ仲間入りとなることを思い、若干の記事としてみました。

「敬老の日」は国民の祝日に関する法律で定められた祝日の一つで、第2条には、「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う。」とあります。発祥の起源はいろいろな説があり、一般的には昭和22年に兵庫県多可郡野間谷村（現在の多可町）で「お年寄りを大切にし、お年寄りの知恵を生かした村作りをしよう」という考えのもと「としよりの日」が提唱されたのが始まりと言われています。その後まず兵庫県全体に広がり、次第に全国に広がっていき、昭和41年に国民の祝日「敬老の日」となりまし

た。ほかの起源説として、ひとつは「聖徳太子が大阪に悲田院を建立した日が9月15日だから」という説があります。悲田院というのは貧困者や孤児などを収容する福祉施設であり、現在でいうところの老人ホームや介護施設に近いものです。別の説には「717年、第44代元正天皇（女帝）が現岐阜県の養老の滝に行幸した日が9月15日」という故事にちなんだというものもあります。養老の滝は当時、万病を癒す薬の滝とされており、元正天皇は行幸記念に年号を「養老」に改元していま

す。では、敬老の対象となるお年寄りの現代の定義はどうなっているのでしょうか。老人福祉法では65歳以上が対象とされていますし、世界保健機関でも65歳以上を高齢者と定めています。また、た、高齢者の医療の確保に関する法律でも65歳以上を前期高齢者と定めています。年金が支給されるのも、最近では65歳からとなっています。こうして見ると、お年寄りとは65歳以上で決まりだと思われれますが、高齢者の居住の安定確保に関する法律では、60歳以上が高齢者と定められていま

すし、道路交通法で定める高齢者運転者等標章を着けられるのは70歳以上（並びに障害者等）とされています。他の国にも敬老の日はあるのでしょうか。いくつか調べてみました。

アメリカでは祝日ではないものの、毎年9月の第2日曜日に祖父母の日という習慣があり、高齢者へ感謝を表すグリーティングカードやお花をプレゼントします。イギリスでは100歳になると王室からお祝いのカードが届くそうです。

中国には9月9日に高齢者を敬う日として重陽節があります。陰陽思想では奇数は陽とされ、陽の数が最大となる9が重なる9月9日を重陽節としました。これは日本にも伝わっており、五節句の一つ「重陽の節句」として、菊の花を浮かべた酒を飲んだり、栗ご飯や秋茄子を食べたりする風習が残っています。

韓国では10月2日が老人の日として定められています。もとも儒教の教えが強い国であり、普段から「高齢者を敬うのは当たり前」という思想が強く、特別なことはしていないようです。ロシアには敬老の日に代わって

高齢者に感謝する記念日が2つあり、ひとつは2月23日の「祖国防衛軍の日」で、父親と祖父に感謝します。もうひとつは3月8日の「国際婦人デー」で、母親や祖母に感謝します。ただし感謝と言っても特に何かをすることはなく、昔の話を聞くとといった感じだそうです。

オーストラリアはちょっと雰囲気が異なり、祝日ではないですが高齢者に対する感謝の気持ちと敬意を表す「シルバー・ウィーク」というものがあるそうです。日には州ごとに異なり、ダンスやコンサートなど様々なイベントが行われ、高齢者が若者たちや地域周辺の人たちとのコミュニケーションを交わす、といった内容になるそうです。

日本に話を戻しますが、そもそも高齢者の存在意義が昔と今では大きく変化しています。例えば江戸時代以前では交通網が発達しなかったこともあり、あちこち忙しく仕事で飛び回ることもほとんどありませんでした。電話もインターネット環境もありませんので、東京と京都の間で手紙による打ち合わせをしようとしても、最速の継飛脚を使ったとしても問いかけ

た話の答えが返ってくるのに一週間かかるというのんびりしたペースでした。そのため人々は「春夏秋冬の一年サイクルにそって毎日やることが決まっていた、毎年同じことの繰り返し」という生活が基本でした。庶民の暮らしは実にのどかでゆつくりとした時間が流れていました。現代のように溢れかえる情報の波に一喜一憂するような目まぐるしさもありません。こうした生活様式をする上では「こういう時はこうすればよい」という答えを導ける知恵や技能がとても大事であり、若者に比べて長い年月を生きてきた経験の豊かな年寄りの持つ情報量が非常に高く評価されていました。老人は地域社会だけでなく職場でも絶対に必要とされ、定年制という概念もなく健康なうちは働き続けることができました。ちなみにこの頃は高齢者という言葉もなく、老人やお年寄りと呼ばれ敬うべき存在でした。ところが明治維新以降は産業振興がすすみ、大東亜戦争終結後は更なる高度成長の中で社会構造が変化し、激動する労働社会には体力気力に満ちた若者の強靱な労働力が必要とされる一方で、高齢者に対しては「若者に比

べて疲労耐性が低く健康状態も不安」「技術革新への対応が遅い」「従来の知識や経験がそれほど必要とされない」といった負の見方が顕在化し、職場の定年制も定着していききました。呼称は「老人」という尊敬の念を持った言葉から「高齢者」という世代間を区別する用語に変容し、社会的に見れば労働社会から除外された保護対象と捉えられるようになっていきました。本人の意思に関係なく年齢によって「前期高齢者」「後期高齢者」などと強制的に区分が変更されることもすっかり受け入れられています。とはいっても活動意欲の旺盛な高齢者は依然として多数派であり、定年を迎え時間的束縛からの解放と心の自由を得たことで活力を取り戻し、ボランティアや短時間労働に精を出す人や趣味活動などに目覚める人も良く見かけます。潜在的な労働力としての存在価値は未だ健在です。

こうした高齢者の置かれた社会環境はどうなっているのでしょうか。厚生労働省によると、令和6年の日本人の平均寿命は男性81.09年、女性87.13年となっています。また、健康上の問題に制限されることなく日常生活をおくれる期間を示す健康寿命は、令和4年の調査結果

ですが、男性72.57歳、女性75.45歳でした。ちなみに90歳まで生存する割合も調査されており、男性25.8%、女性50.2%でした。こうして

みますと、高齢者の仲間入りをしてから寿命を全うするまで長い期間が残されていることになり、豊かに生き抜くための人生設計が大事になります。その中心となるのが経済力と健康維持であることは明白です。更に感動や生きがいを求めるには趣味の充実や社会貢献にも思いを広げる必要がありますが、これにお金と健康が必要です。なか、長生きも楽しむどころか結構大変そうな気がしています。さて、長生きした有名人にどんな人がいるのでしょうか。

例えば神奈川県英知の一人に数えられる北条早雲は88歳くらいまで生きたと言われていますが、目立って活躍を始めたのは60歳になってからです。名君として領民に慕われながらの最期でした。

伊能忠敬は当時としては高齢とされる73歳でこの世を去りましたが、地図作成の測量を始めたのは55歳からで、17年

間でなんと地球一周近くの距離を歩いています。

大岡越前こと大岡忠相は41歳から約20年務めた江戸町奉行として有名ですが、実は60歳になった以降も激務を続け、旗本の身分のままで寺社奉行につき、70歳でようやく大名となり、74歳で徳川吉宗公の葬儀担当者を務めると体調を崩して自宅療養に入りながらも、75歳で死去するまで隠居を許されず奏者番として働き続けました。

このように高齢になっても役割を果たそうと頑張った人はいくらかでもいました。私も高齢者の地位に甘んじず、無理しなければいいことを見つけて試しにやってみる(まあ、現職自衛官の頃は上司より、「無茶はいかんが無理しても頑張れ。」と指導されてきました)。あるいは社会と何らかの形でつながりながら誰かの役に立つことをする、という気持ちを持ち続けていきたいと感じました。

諸先輩方から多くのご指導・アドバイスを頂けることを楽しみにしています。よろしく願います。

『続 父の膝で聞いた話』

支部理事役 樋田 昭文

私の父について・・・

父は大正7年生まれ、志願で陸軍に入りノモンハン終戦1週間ほど前に渡満。ひたすら無敵関東軍の一翼を担い続けシベリア抑留を経験し、骨皮筋右衛門で帰国。警察予備隊、保安隊、自衛隊と進みました。話し好き、子供好きだった父の膝の上は特等席。「ガチャコン、ガチャコン、ポッポ」なんて汽車の走行音とともに、膝の上で揺らされたり様々な話を聞いた。少年時代の楽しかった思い出・・・この辺は以前にも書きましたが・・・

いよいよ本題・・・父が陸軍の砲兵になった経緯は徴兵検査、父の場合は志願なので兵役検査と呼ぶべきなのでしょう。この辺りよくとあいまいすすみません。当時の少年の多くがそうだったように、父もパイロットになりたくて、それも海軍のパイロットに・・・

当然、海軍の身体検査を先に受けて、最終審査(?)に検査官のところへ行ったら、海軍の検査官

は若い現役士官で横柄で「目が悪いのか・・・うんぬん・・・パイロットは無理だな・・・うんぬん」と言われ、しつこく迫れば航空兵の可能性もあった様ですが、カチンときて陸軍へ、陸軍の検査官は好々爺然とした穏やかな人で、

「生き物は好きかね?」

「はい」

「馬は好きかね?」

「はい」

他にもやり取りはあったのですが、「甲種合格」となり、陸軍砲兵として新兵教育の後、満州へ渡ったのがノモンハン事件終結の少し前でした。

もし、海軍の検査官が穏やかな少年の夢を何とかしようと考えている人だったら、父は海軍の航空兵要員となり、そうしたら、大東亜戦争開戦ころには中堅航空兵となっていて、きつと南の空で戦死していただろう・・・と、言っていました。

以下、順不同で・・・思い出すままに・・・

シベリア抑留中、原生林で父たちが伐採作業をやっている傍らで、ソ連の監視兵が小高い丘の上にゴロンと寝転んで肩肘枕でのんびりこちらを見ていた。あとで、「あんなところに寝転んでいて

「寒くないのか」と聞いたら、「寒い？気持ちよかったじゃないか」と言われたそうで・・・

伐採作業中、時には予定外の方
向に倒れることがあり、普通なら
難なく避けられるものですが、み
な栄養失調でフラフラ・・・避け
きれずに倒木に当たってしまっ
た。そんな光景を一度ならず目撃し
たそうです。

父は絵心もあつたので、ある
時、何かの行事に合わせて大きな
絵を描くことを命じられ、本気で
書けば2日位で描けるものを、描
いてる間は他の作業は免除になる
のでわざと描いては消し、あちら
を修正し、こちらに描き足し・・・
当然、期日には間に合わせました
が、特命をいいことに最大限骨休
めをさせてもらったそうです。

抑留も末期には、抑留生活の成
果（教育？の成果）確認のため、
演説会が行われたそうで、父は一
計を案じ、仲間を会場のあちこち
に配置し、「我々はー！」と言っ
てこぶしを振り上げて振り回した
ら、それぞれに「わー！」とか
「いいぞー！」とか言いながら拍
手・・・まわりがつられて拍手を
始めたからおもむろに制止して、改
めて「我々はー！！」であるから

してー！」（途中、腕を上げて振り
回す） 会場ではまた「わー！」
パチパチ・・・これを何回か繰り
返すと持ち時間は終わり。ソ連兵
は何か知らないが、彼は素晴らし
いことを言っていたんだ。十分教
育の成果は上がった。と判断した
のかどうか？

無敵関東軍の一翼を担っていた
当時の話は、以前の話に書いたぐ
らいしか覚えていません。悪しか
らず、そのような訳で、ここから
は警察予備隊・自衛隊時代の話

中隊長時代、当然、ジープで砲
兵隊を先導する。このとき、先導
のジープが普通に走っていると、
結果として後続の大砲をけん引す
る大型車が対向車に幅寄せされ危
険なので、キーブライト、中央寄
りで走行するよう指導していたそ
うです。

次は私の記憶・・・

千歳市内で観閲行進を行って
ました。国道36号の中央バス千
歳ターミナル横から国鉄（現在の
JR千歳線）線路横の十字路にか
けて位で行進していました。

昔は東京でも自衛隊記念日に観
閲行進しましたもんね。私も映画
館前で行進しました。そしてそれ
がラスト（昭和46年）で翌年か

ら朝霞駐屯地での観閲式となりま
した。

少年時代、友達とノッバラで戦
争ごっこしていると、脇の道を完
全武装の自衛官が演習場に向けて
前進していくのが見えました。

少年術科学校1年から3年の3
回、広島郊外の原村演習場で陸戦
訓練がありました。（ひよつとす
ると、2年3年の2回？歳のせい
か曖昧・・・）このとき、ふと気
付くと、近くの茂みに陸上自衛官
が潜んでおり、驚いた記憶があり
ます。

父の現役最後の配置は地連の千
歳募集事務所長、そのついで、
定年後さる大企業の募集担当に就
職し、道央から道南を担当し、車
の走行距離が1年10カ月前後で
5万キロ走り、その位のペースで
車を乗り換えていました。

任期満了隊員をその会社に入れ
たり、高校生でこれはという子を
自衛隊に紹介したりと融通利かし
ていたそうです。



年会費納入のお礼とお願い

11月11日現在、以下の方々
から令和7年度の年会費を納入頂
きました。ありがとうございまし
た。なお、お振り込みが本紙と行き
違いになってしまいましたら、何
卒ご容赦ください。

1 特別会員

尾崎津与志様、小磯静雄様
坂井学様、新堀史明様
松田良昭様、松本研様

2 年会員

◇中区…向山秀樹様、森幸治様
森剛様

◇南区…糸藤真木雄様

中谷裕二様、野末善子様
原田昌一様、三浦昌伸様
村田和美様

◇港南区…河村雅美様

◇磯子区…秋元道明様
井出大亮様

◇金沢区…池田秀人様

石橋啓志様、岩渕修様
大波敏弘様、菊池達夫様
木村透様、志賀忠信様

田口慶明様、寺田信夫様
中島信行様、林泰弘様

藤井英晶様、山中才司様
山脇修様、渡邊圭三様

◇保土ヶ谷区…石橋督悦様
海野修作様、田中正人様
濱田正徳様、平賀賢二様
◇戸塚区…石黒修様、石寄武世様
遠藤栄二郎様、出羽修様

野村優子様、春木登志彦様
藤野憲介様

◇栄区…田中亮二様、中尾誠三様
山口治彦様
◇泉区…小笠原進様、角館満弘様
◇相模原市…浅沼吉廣様

年会費は横浜南支部の具体的活動の支えとなっています。まだご納付のお済みでない方はお早めにご納付をお願い致します。

振込用紙(払込取扱票)のない方は、ゆうちょ銀行 00220-5-132098「神奈川県隊友会横浜南支部」に振込をお願い致します。詳細は「隊友よこはま南特集号(2025.7.16)」をご覧ください。

神奈川県自衛隊音楽まつり
協賛を頂いた方々へのお礼

第47回目を迎えます音楽まつりは、海老名市文化会館において令和8年3月15日(日)に開催されます。協賛を賜りました次の皆様に、心から御礼を申し上げます。

す。(11月11日現在)ご寄付が本紙と行き違いになってしまいましたら、何卒ご容赦ください。

◇中区…塩川幸隆様

◇南区…金澤武司郎様、櫻井和彦様、新開仁司様、原田昇様、坂東勝昭様、吉田巖様

◇港南区…故山崎和彦様令夫人様
◇磯子区…秋元道明様、家山正秀様、大塚八左右様、重村勝弘様、富澤暉様、田原昭彦様

◇金沢区…石橋啓志様、五島浩司様、田内浩様、高橋節男様、中島信行様、長谷川洋様、平松靖様、廣瀬誠様、廣部秀夫様、山脇修様、渡邊智弘様

◇保土ヶ谷区…濱田正徳様、平賀賢二様、吉田道也様、和田耕次様

◇戸塚区…石黒修様、鈴木直栄様、野村優子様、藤野憲介様、本田誠様、山内鐵男様

◇栄区…山口治彦様、匿名の方

◇泉区…山村浩様、角館満弘様

◇市内・県内…長嶺誠様、浅沼吉廣様、藤井信行様

支部機関紙運営等に

ご寄付を賜った方々へのお礼

手作りとは言え皆様に配付をさせて頂いています支部機関紙等をはじめとします諸費用へのご寄付に對しまして心から厚く御礼を申し上げます。支部活動活性化のために適切に運用させて頂きました。これまでにご寄付を頂きました方々です。(11月11日現在)

◇中区…石川常夫様、塩川幸隆様
◇南区…金澤武司郎様、櫻井和彦様、新開仁司様、原田昇様、原田昌一様、樋田昭文様、坂東勝昭様、藤田泰夫様、三浦昌伸様、吉田巖様

◇港南区…大内廣様、神田真治様
◇磯子区…家山正秀様、大塚八左右様、古賀雄次郎様、富澤暉様、田原昭彦様、前田丈典様、山崎敏雄様

◇金沢区…石橋啓志様、大西規雄様、金子雋英様、木津宗一様、五島浩司様、田内浩様、高橋節男様、田口慶明様、寺田信夫様

中島信行様、長谷川洋様、林泰弘様、平松靖様、山脇修様、廣部秀夫様、渡邊智弘様

◇保土ヶ谷区…濱田正徳様、平賀賢二様、吉田道也様、和田耕次様

◇戸塚区…石黒修様、鈴木直栄様、野村優子様、藤野憲介様、本田誠様、山内鐵男様

◇栄区…山口治彦様、匿名の方
◇泉区…山村浩様、角館満弘様
◇市内・県内…長嶺誠様、浅沼吉廣様、藤井信行様

令和7年度秋の叙勲受章者

長年のご功績が認められ、栄えあるご受勲、心よりお慶び申し上げます。今後ともご健勝と更なるご活躍を祈念致します。

(令和7年11月3日付)

【瑞宝中綬章】

大塚 八左右様(元海将)

(元自衛隊中央病院副院長)

(支部会員…磯子区)

【瑞宝小綬章】

角田 伸吾様(元海将補)

(元海上自衛隊徳島教育航空群司令)(支部会員…神奈川県)

この他、支部管内では次の皆様
が叙勲を受賞されました。誠に
めでとうございます。

【瑞宝小綬章】

高橋 陽一様(元海将補)
(元海上自衛隊幹部学校教育部長)
(南区)

【瑞宝小綬章】

中園 康也様(元防衛技官)
(元南関東防衛局調達部長)
(南区)

危険業務従事者叙勲

【瑞宝単光章】

田中 京一様(元准空尉)
(元航空自衛隊補給本部)
(南区)

令和7年度褒章受章者

長年のご功績が認められ、栄え
あるご受章、心よりお慶びを申し
上げます。今後ともご健勝と更な
るご活躍を祈念致します。

(令和7年4月29日付)

【藍綬褒章】

山野井 正郎様
(現自衛官募集相談員)

(港南区)

長年にわたり上大岡募集相談員
会会長として自衛官の募集のみな
らず、地域防衛基盤の育成および

発展に多大なるご尽力を頂いてお
ります。山野井様は今春受賞され
ており、本来は本紙前号でご紹介
させて頂くべきところ、今回の掲
載になりましたことを深くお詫び
申し上げます。

俳句・川柳コーナー

会員相互の親睦を図る手段の一
つとして、機関紙「隊友よこはま
南」第52号から俳句と川柳を募
り、優秀作品を掲載しています。
今回は「ふるさと」を課題とした
①「課題の部」と②「自由の部」
で募集をしました。2名の方から
応募を頂きました。心から御礼と
感謝を申し上げます。今回も俳句
の応募はありませんでした。

【川柳 課題の部「ふるさと」】

★「故郷の
訛り恋しく 受話器取る」

★「目を閉じて
ふるさとの道 近く見る」

★「ふるさとの
川の冷たさ 偲ぶ草」

★「故郷の
味を近所に 持ち歩く」
(会員家族・名無草)

【川柳 自由の部】

★「金かけた
旅行に勝る 家ビール」
(会員・菊島信洋様)

菊島会員…「貴重な休みの日に
妻と遠出をしてみました。移動
費や入場料、外食費とかなりの出
費でした。しかも外はとんでもな
い猛暑で極限の疲労感が残り、財
布も身体も大ダメージを受け帰宅
するや冷蔵庫から出して飲んだビ
ールの一口目に感じた思いを詠ん
でみました。」

★「新職場

また灯り出す 使命感」
(会員・菊島信洋様)

菊島会員…「自衛隊、町役場、
防災コンサルタントと公的責任を
果たす仕事を続けてきましたが次
の就職は力を抜いてできる仕事
を、と考えて民間会社に入りました。
与えられた仕事は限られた内
容でそれほどの責任もありません
が、少し工夫して、とかこは少
し見直して、と心がモゾモゾ動い
てしまします。これが性分かとあ
きらめた気持ちを詠んでみまし
た。」

★「整列に

遅れて焦る 夢ばかり」
(会員・菊島信洋様)

菊島会員…「自衛隊を退職して
だいぶ経つの、ここ数年は現役
の時の夢ばかり見ます。しかも、
演習出発や行事の集合などの整列
時間に遅れる場面が大半です。な
んで今さらこんな夢を見るんだと
自虐を込めて詠んでみました。」

次回の課題は「初春」です。
作品は随時募集しています。

ハガキ…〒235-0034

横浜市磯子区杉田坪香十一五

メール…aki-b5@com.home.ne.jp

いずれも、田原昭彦宛で、様式
自由にてお願いいたします。

なお、俳句・川柳に詳しい方に
もご連絡・サポート頂ければ幸い
です。

編集後記

編集防人

本号から「隊友よこはま南」の編集に
携わることになりました。不慣れな点が
多々あると思いますが、本紙が会員の皆
様の元気の源となるよう精進いたしま
す。皆様からの「ご意見・ご要望・叱咤激
励など、心からお待ちしております。」